



開会式の演奏を担当する県内高校生吹奏楽部、合唱部員による初の合同練習

インタハイ演奏へ

1300人が初の合同練習
堂々のハーモニー響く

【宇都宮】八月に県内各地で繰り広げられる高校スポーツの祭典、全国高等学校総合体育大会（インタハイ）を前に、大会を支える

準備が着々と進んでいる。十五日、元今泉町の市体育館で、開会式の演奏を担当する県内高校の吹奏楽部や合唱部の生徒総勢約千三百人による初の合同練習が行われ、堂々としたハーモニーが響き渡った。

午前中は吹奏楽と合唱に別れて音合わせを行い、午後からはいよいよ合同練習。吹奏楽六百三十四人、合唱六百八人、フェンファレ演奏六十人が練習開始を待つフロアでは吹奏楽器や打楽器を構え、のどの調子を整える学生服装が緊張感を波打つように並んだ。

初の合同練習は、各校の垣根を越えての統一と、演奏と歌声の調和が課題。本番までに十八曲の調整を行う予定だが、合同練習が行えるのは、この日と総合リハーサルを含めてもわずか九日間。この日の約六時間の練習も生徒たちには短く感じられたところだった。

平成5年高校総合体育大会（栃木県）

1993年8月1日 県総合運動公園

吹奏楽隊 634名 合唱隊 600名 ファンファーレ隊 60名



三日前の最後の練習

仕上げの打ち合せの真剣な表情
坪山氏・須藤先生・荻野先生



太鼓のはりを指導する都野先生





本番準備OKファンファーレ隊

本番で奏る吹奏楽隊



集団演技を裏から見て楽しむ



出番前の指揮者達